

303
55

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始





大正圖書館
卷第三

才二末

才三初

長女傳
玉妙自院



あまのいづれ和泉水のつねれさふさしりひのこふま院法時
手所り高の人とまゐりてさうくひとめ女侍ふこれと
の家儀かきぬる也さうくこのうまに居る我政の
へい侍ふ後ふあはまに方とすむけるみややこれ
のすくれあまのさあ人侍らむねさうひける人三人也
やのりの上総介源満氏おふこのほの守藤原行方城に
宮のさうまにこれ所蔵の時り形しこれとくさうしのは
じまもとわれけりさう家のひまもさうかきさうして
下れけり首を末所蔵義之のまにさあに家儀とて昔原の
時志一八個がへて守りのよの忠命とひけ侍らさう
これと清和の法流さう此弟田山三原これと祖さう
侍ら馬羽院に所蔵さうさうさうさうさうさうさう

あまのいづれ和泉水のつねれさふさしりひのこふま院法時
手所り高の人とまゐりてさうくひとめ女侍ふこれと
の家儀かきぬる也さうくこのうまに居る我政の
へい侍ふ後ふあはまに方とすむけるみややこれ
のすくれあまのさあ人侍らむねさうひける人三人也
やのりの上総介源満氏おふこのほの守藤原行方城に
宮のさうまにこれ所蔵の時り形しこれとくさうしのは
じまもとわれけりさう家のひまもさうかきさうして
下れけり首を末所蔵義之のまにさあに家儀とて昔原の
時志一八個がへて守りのよの忠命とひけ侍らさう
これと清和の法流さう此弟田山三原これと祖さう
侍ら馬羽院に所蔵さうさうさうさうさうさうさう

物成つてはさきより一々此の法中答ふに我もたに...
すまはんにんらるゝ観音夢...
ふれは御謝をんか...
いふ...
くし...
ら...
を...
は...
い...
又...
は...
これ侍一也

五札談巻第二

らとこれハ才ニ卷也

の...
妙首院の法流ハ利の...
これ侍一也

文礼談卷第三

一 通運の流を入道、これに在侍の流儀あり、その流儀は

信西入道

おし、常法の今とて、くもつたう、ついでに、内裏とて、

中とて、けい、いけるも、あへし、常人、くもつたう、ついでに、

これ萬物の祖也、天地の母、律の、い、くもつたう、ついでに、

二音通

力あり、くもつたう、和す、仁義礼智信、くもつたう、ついでに、

心、お、火、合、水、くもつたう、ついでに、

邦國、くもつたう、ついでに、

山川の流、あ、つ、くもつたう、ついでに、

やくへし、い、くもつたう、ついでに、

乱、逆、し、姉、弟、あ、つ、くもつたう、ついでに、

くもつたう、ついでに、

くもつたう、ついでに、

一 此の流、くもつたう、ついでに、

林全二四

有、ま、くもつたう、ついでに、

有、平

人、の、め、あ、つ、くもつたう、ついでに、

女、の、あ、つ、くもつたう、ついでに、

が、あ、つ、くもつたう、ついでに、

しれはこゝ所成するをとりて下はひかりくくを横せり此
多しりりてこゝの二名をいふ也但この由元調の五音より
外のこゝをいふ也

上无調五音一属す又品あり一属也 下无調木音一
属す又律一属也

雙調五音一属す一は成あすり一上下は五音調也
品律二音成生一上二は成父母とす一は成木此音を
生一上雙調の多はくも也 天台正觀八會 天地二此氣を
して有之行 千字文云 律呂湯沸之のよは青湯
りくも春は候なり あり一は成五音此父母五音

の子成生一上二は成父母とす一は成木此音を
一は成り也一は成り也一は成り也一は成り也
一は成り也一は成り也一は成り也一は成り也

又上无調一浦音あり一は成り也一は成り也一は成り也

は七の音也 此則天の日月五星此精也 此の陰陽五行
のこゝをいふ一は成り也一は成り也一は成り也
浦音一は成り也一は成り也一は成り也一は成り也
木の音一は成り也一は成り也一は成り也一は成り也

身は浮くもた上音調物越るる也

黄鐘調火音律多也 如使八言 語言とハ散火ト馬丁

寂といふハ黄鐘調の音也 如和ぬは調より音也

この火音より遠くし甲とのなりて五音律生す則多

の音也 此五の音も頻く甲しにくらりて此しと母

よりて全の音律生す則夕干は音也 如をりて黄鐘調

ハりらるる也 五の音律よりて黄とをるを 全の音律取て 鐘といふ也

一越調五音律なりと云ふと云ふ一但使八言 宮といふ則ハ

六同卷下

了骨ハ玉石ハ骨ハ肉ハ地五ハ骨ハ肉ハ毛ハ

草根林ハ骨ハ肉ハ 之我天ハありて五音といハ地ハあり

之岳といハ 海陽ハありてハ行といハ心ハありて

五音といハ内ハありてハ林といハ行ハ併ハありてハ

心ハありてハ心ハありてハ心ハありてハ心ハありて

八調詠曲といハ儒家といハ法ハ一ハ此ハハ情詩

と講より竹のたれハ心ハありてハ心ハありてハ心ハありて

源家といハありてハ心ハありてハ心ハありてハ心ハありて

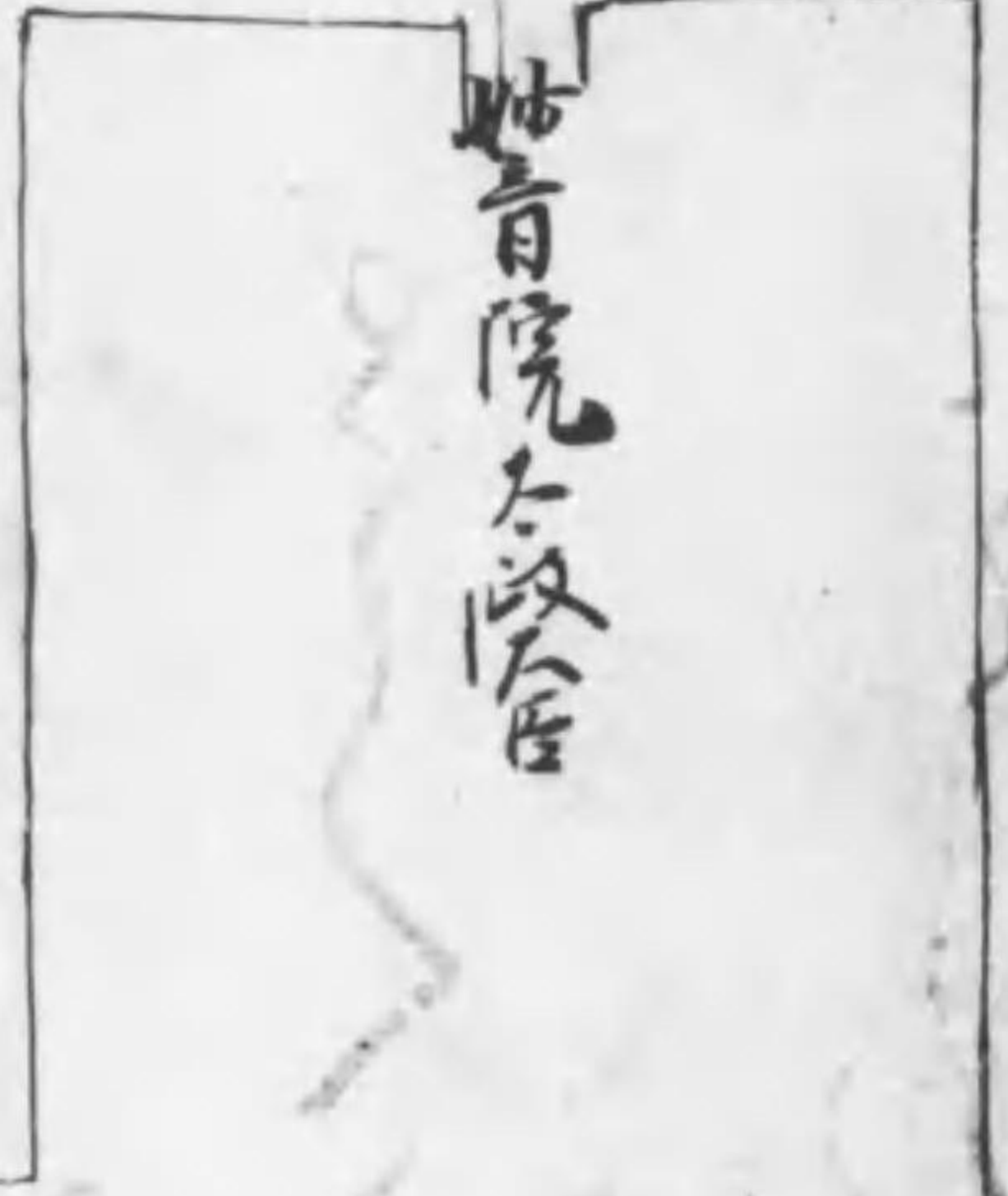
祝の音曲といハありてハ心ハありてハ心ハありてハ心ハありて

曲よりいづく傳ふ分は、乃清子より一季比在下雅信家
 の在下直信なりと申しつゝなる言違よりいづくことよ
 此音曲の違者よりいづる小野音成の流記より傳ひらる
 本和二年二月二日臨時言ふいふありて、此よりいづる小野音
 一もいづり給けりし、我直りいづる言違ありきと、此後今
 月よりいづる傳へ給へ給へ、此の直信は、いづる言違
 長瀬の流の直の直よりいづる、廣田よりいづる言違ありて、
 一先帝よりいづり給へ給へ、此の直信は、いづる言違ありて、
 神代に在りしをいづる、此の直信は、いづる言違ありて、
 此の直信は、いづる言違ありて、此の直信は、いづる言違ありて、
 人よりいづる言違ありて、此の直信は、いづる言違ありて、
 人よりいづる言違ありて、此の直信は、いづる言違ありて、

乃清子より一季比在下雅信家
 の在下直信なりと申しつゝなる言違よりいづくことよ
 此音曲の違者よりいづる小野音成の流記より傳ひらる
 本和二年二月二日臨時言ふいふありて、此よりいづる小野音
 一もいづり給けりし、我直りいづる言違ありきと、此後今
 月よりいづる傳へ給へ給へ、此の直信は、いづる言違
 長瀬の流の直の直よりいづる、廣田よりいづる言違ありて、
 一先帝よりいづり給へ給へ、此の直信は、いづる言違ありて、
 神代に在りしをいづる、此の直信は、いづる言違ありて、
 此の直信は、いづる言違ありて、此の直信は、いづる言違ありて、
 人よりいづる言違ありて、此の直信は、いづる言違ありて、
 人よりいづる言違ありて、此の直信は、いづる言違ありて、

源家
 宇治院上は、此の直信は、いづる言違ありて、此の直信は、いづる言違ありて、

藤家
 宇治院上は、此の直信は、いづる言違ありて、此の直信は、いづる言違ありて、



右の直信は、いづる言違ありて、此の直信は、いづる言違ありて、
 此の直信は、いづる言違ありて、此の直信は、いづる言違ありて、
 此の直信は、いづる言違ありて、此の直信は、いづる言違ありて、

藤家
 宇治院上は、此の直信は、いづる言違ありて、此の直信は、いづる言違ありて、
 此の直信は、いづる言違ありて、此の直信は、いづる言違ありて、
 此の直信は、いづる言違ありて、此の直信は、いづる言違ありて、
 此の直信は、いづる言違ありて、此の直信は、いづる言違ありて、

終